



明るく、楽しく、真剣に…。農業、農村を見つめる農業映画祭

このほど農水省が発表した農林業全数調査によると、この5年間で基幹的農業従事者は34万2千人（25.1%）も減りました。このまま減少が続ければ、農村は崩壊し、食料の生産基盤がなくなってしまいます。

こうした数値を見ていると、この先のこととは絶望的に見てしまいそうですが、11月29日の第5回上越★農業映画祭（会場は高田世界館）に参加してみて、「多くの人が農業、農村の持つ魅力を再発見し、これまでの農政を変える運動をしていけば、希望を持てる」と思いました。

上映された映画は3本。1本目のドキュメンタリー映画、「里山のふところ」の舞台は私が何度も訪れている桑取の暮らしだけで、映像がいつに美

しく、農作業、祭りなど地域の人たち



の暮らしぶりがとても楽しく描かれていました。しかもカメラの視点が面白い。ヤマボウシの花の中心部をクローズアップしたり、猫が稻の穂にさわったり……。とても親しみを感じました。3本目の「ごはん」は稻作の入門映画であり、親子の心の動きを追った

愛情物語でもありました。たんたんと描いている映画なのに、途中から涙が止まりませんでした。

日本農業新聞の元記者、大野さんなどとの「映画振り返りトーク」も面白かったです。真ん中のイラストは1本目の映画のワンシーンを描きました。

ミニコンサートは山岸協慈さんのギターと平沢栄一さんの歌でした。山岸さんの演奏はここでしか聴けないので、いつも楽しみにしています。

平沢さんの歌と山崎美矢子さんのフルート、惚れ惚れして聴きました。



三和区のコウノトリの親鳥ペアが先月末から巣の手直しを始めています。これは次期繁殖の準備です。2年連続のヒナ誕生が楽しみになってきました。



先週の木曜日、27日は、ぽかぽか陽気で、『もうけもんの日』でした。写真は大島区田麦での切り干し大根づくり。

【ハルジオン】（再掲）キク科の多年草。漢字で「春紫苑」と書きます。同じ時期に咲く花に「ヒメジョオン」がありますが、「ハルジオン」の方が花びらの幅が細く、細かく見えます。ハルジオンの茎には空洞があります。ヒメジョオンにはありません。花期は4月から6月。でも、いまも咲いています。花言葉は「追想の愛」「秘めたる想い」。3日に吉川区代石にて撮影しました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2230 2025.12.7

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hosei.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八七七回 最後のアケビ

私の事務所のすぐそばにあつたアケビは十一月八日の東京吉川会に持参したのが最後の収穫で、残つていたものはすべて実が落ちました。いまあるのは皮だけです。

十二月に入り、もういつ雪が降つてもおかしくない時期です。ここまでくると、晩秋のアケビも完全に終わつて、次にアケビを口にできるのは来年の秋だと思っていました。

ところが、まだ終わつていなかつたのです。この間の火曜日、コウノトリの観察仲間のSさんと巣の様子を見に出かけた時のことでした。私が「歩いていて、中身のないアケビの実を見つけたよ」と言うと、Sさんが近くの雑木がある場所に入つて、まだ青紫色をしたりっぱなアケビを二個採つてきてくれたのです。いずれも色艶が良くて、完熟した実がしつかりついていました。びっくりしましたね。もうすっかり冬だというのに、実の入つたアケビがまだあるとは……。

Sさんによると、アケビがある場所付近には、雪道を踏み固めるときに使うカンジキの輪の材料、カナヅルもあるとのことでSさんにお願いし、その場所に案内しました。Sさんにお願いし、その場所に案内してもらいました。私はカンジキの輪はどこでも根曲がり竹を使ってつくるものと思っていたので、これとは別にカナヅルというものがいることは知らなかつたのです。

木と一体でした。カナヅルの木は太さが直径二〇センチほどで、大きなフジのツルのようでした。その木の途中に、緑色をした直径一・五センチほどの細い枝が二尺くらいの長さで伸びていました。これがカンジキの輪になるということでした。

こんもりした木を下から上まで見ると、アケビの皮が十数個ぶら下がつていました。「あら、実の入つているのがもう一つ

ある」。Sさんはさう言つて手を伸ばしました。

これで実の入つたアケビは三つになりました。すぐ食べても良かつたのですが、この時、頭に浮かんだのは、ここ十数年小説を書いている埼玉県三郷市在住の玄間太郎さんです。「そうだ、玄間さんに送らなきや」と思いました。

じつは東京吉川会があつた十一月八日の私の事務所脇で採つたアケビをフェイスブックなどで「朝採りのアケビ」として発信していました。

その際、ぜひ欲しいと手をあげた人が二人いたのです。一人は玄間さん。新潟の旧寺泊町出身の人で、元「しんぶん赤旗」の記者さん。「天明の越後柿崎一揆」のことを見てきました。私はスバぶりました。「うまそう！ 懐かしい味、食べたいな」とコメントを寄せてくださいました。もう一人は板倉区のM子さん、「あー、アケビ食べたい。昨年はスバぶりました」とのコメントをいただきました。

今春、大量のイチゴをいただいたM子さんは、すぐに残つていたアケビを届けました。数に限りがあり、玄間さんには来年の秋にでも送ろうと決めていました。

玄間さんには火曜日の夕方、宅急便で三個のアケビとタンポポを入れて送りました。受け取つた玄間さんからは、「この、さっぱりしたほろ甘い上品な味。子どもの頃裏山で遊んでいてアケビを見つけるとそれしくて、タネを口からはきながら、かぶりついた」という言葉が返つてきました。今年のアケビはもうないでしょう。走、今年やり残したことはゼロにしたいものです。いま、玄間さんにアケビを送ることができてホッとしています。アケビが元気回復のエネルギーになればうれしい。



上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	11月26日(水)	12月3日(水)
上越消防署	0. 053	0. 050
上越南消防署	0. 057	0. 047
新井消防署	0. 047	0. 047
頸北消防署	0. 053	0. 050
頸南消防署	0. 057	0. 060
東頸消防署	0. 057	0. 047
名立分遣所	0. 060	0. 047
高士分遣所	0. 057	0. 053

「勝手にガズレレ上越」、楽しさ満点

11月30日、「勝手にガズレレ上越」のコンサートに行ってきました。会場の大湯コミュニティアラヤの大ホールは観客でいっぱいになりました。

同グループが単独でコンサートを開催するのは今回が初めてといふことでした。でも、そうとは思えないほど流れが良くて、盛り上がったコンサートでした。

同グループの特徴は楽しいことです。歌あり踊りありで、しかも

笑いがいっぱい。この日も顎が外れそうになるほど笑いました。

応援にはライオン像のある館で「寄り道ライブ」を継続的に行っている川合徹人さんとパートナーサンや南米音楽グループのマリキータも登場しました。

一度に3つのグループのおいしいところをいただいたようなコンサートでした。上のイラストはドリフの歌でみんなで楽しく踊つている風景を描きました。